

- ・事前に厚紙で風の型を作り、竹ひごは切り分けておきます
- ・ビニールを型（ダイヤモンドベース型）に沿って切る
- ・セロテープで風の骨になるよう、竹ひごを所定の位置に取り付け、風を上げるための紐を2本取り付ける。紐を取り付ける際は、ビニール地をセロテープで補強します。
- ・ビニールに「名前」「好きな漢字（一つ）」「今年の目標や誓い」などを日本語で書きます。

※詳しい作り方はこちら

→「風-手作りの魅力」<http://jblog.takoaki.com/?cid=28502>

ただ作るだけでなく、授業で作成するときは、ぜひ風あげの意味や歴史などもお伝えください！

地域の方々や学習者の家族にも参加してもらい、協力し合って作ってもよいかもしれません。

1. JICA日本語教育ボランティア関連

【JICAボランティアの世界日記】活動紹介ブログ

■坂本 麻子さん（ブラジル／日系日本語学校教師）

『マンゴーの樹の下で』

12/15更新「カラオケ」

http://world-diary.jica.go.jp/sakamoto/culture/post_16.php

■佐賀 直子さん（ブラジル／日系日本語学校教師）

『思いっきりやっごらん！』

11/30更新「ブラジル流餃子。」

http://world-diary.jica.go.jp/saga/activity/post_23.php

■山田 祐也さん（中国／日本語教育）

『中国三大ボイラー武漢での暑い（熱い）日々。』

11/29更新「日本語スピーチコンテストに向けて」

http://world-diary.jica.go.jp/yamada/activity/post_3.php

■ブラジル事務所HPより

「つながり」を求めてー在外研修「継承日本語教育研修会」企画者の立場から（ブラジル日系日本語学校教師 坂本麻子さん）

<http://www.jica.go.jp/brazil/office/information/articles/2015/20151208.htmlh>

2. JICAナレッジサイト（日本語教育分野）更新情報

▼日本語教育ボランティアの派遣累計及び派遣中人数、国別の配属先情報等を随時公開中！

- ・外部公開はこちらから※現在改訂中※

<http://gweb.jica.go.jp/km/FSubject2301.nsf/> 共通 >

基礎知識 > 基本統計 >

- ・JICA関係者の方はこちらから：

<http://knowledge.jica.go.jp/> ナレッジサイトトップ >

分野課題 > 日本語教育 > 共通

▼JICA日本語教育ボランティアガイドブックを増刷しました。

世界各地の日本語教育分野で活躍するボランティア10人のインタビュー記事も掲載しています。日本語を通じてつながる世界を知ってください！送付希望の方は jica.jv-japanese@jica.go.jp までご連絡ください。

3. 日本語・日本語教育関連サイト、ニュース

▼宇都宮大学

- ・HANDS プロジェクト「だいじょうぶ net.」
外国人児童・生徒をサポートするプロジェクトです。
中学教科単語帳や日本の教育の仕組みなどの多言語資料など掲載されています。

<http://www.djb.utsunomiya-u.ac.jp/>

▼三重県津市教育研究会多文化共生教育部会

- ・日本語教材・各教科教材・翻訳文書紹介
在留外国人児童向けの教材データです。

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~jikanwar/nihongokyoza/nihongokyoza.html>

▼全国日本語教師養成協議会

- ・第3回全養協日本語教師採用合同説明会<JICA ブース出展アリ>
実施日：2016年1月20日（水）16：00～20：00
場 所：SYD ホール（東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2）

詳しくはこちら→<http://www.ijec.or.jp/>

- ・第11回全養協日本語教師検定 試験日：2016年2月21日（日）

詳しくはこちら→<http://www.zenyoukyou.jp/kentei.html>

4. 「技術顧問コラム」

今回は佐久間勝彦技術顧問です。

JICA 日本語教師 OV・50年分の“同窓会”

協力隊発足50周年を記念して130名あまりのJICA日本語教師ボランティア経験者が幡ヶ谷のJICA東京に集いました。北海道や九州から駆けつけた人、海外から一時帰国して参加し翌日には日本を離れた人、30年以上も前に広尾の面接室で会って以来という人、月並みな表現ですが感無量の連続でした。

たまたま今年は私が技術顧問としてJICAに関わる最後の年度ということもあり、皆さんから過分の労いとお祝いのごことばを多くいただきました。思えば、市ヶ谷で技術研修生に日本語を教えはじめたのが1971年ですから、JICAとのお付き合いも45年になります。それは私の日本語教師人生のほとんどすべてに重なります。

そして、“同窓会”終盤、皆さんへの挨拶で少しお話をしたのですが、今回のコラムでは、以下、その話の要旨をご紹介します。

思い出話や回顧談を始めたならこの同窓会の3時間全部を使っても足りませんので、今日は、私の、これからの夢や課題について、大小一つずつお話しします。70歳になって半年となる高齢者の「これから」にお付き合いください。

まず、大きな夢（課題）です。長年JICAや国際交流基金

が行う日本語教師派遣に、不本意ながら“自転車操業”的に関わってきた私自身の反省からですが、私の大きな夢(課題)は、海外での日本語教育活動から得られた“宝物”の整理と共有を呼びかけること、それを活字などで資料として残すことです。具体的には、数年前に立ち上げた「海外日本語教育学会」の地味な活動を大切にすることです。

協力隊に35年間も関わった私が隊員経験者の方々から耳にたこができるほど聞かされた台詞に「与えたものよりも与えられたもののほうが大きかった」がありますが、率直なところ、「だから？」と問いかけたい気分になることが何度もありました。そのココロは、「与えられたもの」(宝物)を独り占めにしないでいただきたいということです。JICAボランティアに参加したくてもそれが叶わなかった人々とも、その“宝物”をシェアする使命があるのではないのでしょうか。

あの2年間は、任国の学習者にとって何だったのか、同僚にとって何だったのか、任国の人々にとって、その国にとって何だったのか、そして、自分にとって何だったのか、日本にとって…などなど、それを、帰国して5年後、10年後、30年後などに振り返って、総括をし、考察を加えて、話したり書いたりすることが何より貴重だと思います。そのため、口頭発表の場(研究会)と活字発表の場(学会誌)を運営していくことが、私の大きな夢であり、大きな課題です。詳しくは近々刊行される学会誌創刊号の拙稿「海外日本語教育研究の課題」をお読みいただけたら幸いです。

次に、小さな夢(課題)です。それは、小学校のときからの苦手科目に再挑戦することです。小学校のときの通信簿(成績表)でどうしても5(優)のとれなかったのが「音楽」でした。音符が読めず、半音が聴き分けられず、その後の人生、ずうっとコンプレックスを感じていましたが、“七十の手習い”として、86歳の元音大教授に歌を習いはじめています。何のためということもありません。発表の場もありません。それでも、同じ曲を300回も500回も聴くうちに、少し前まで歌えなかった箇所が歌えるようになったりそれを先生が指摘してくださったり、ただそれだけで、何とも嬉しく、その時間が至福のひとつとなります。道具的動機づけはゼロに近いのですが、それは“生きること”に関係します。その“七十の手習い”を通し、実益のない日本語学習の意味に通じるものを感じたりもしています。

編集後記：

ボランティアの皆さん、任国で流行している日本の歌やマンガについて引き続き募集中です。皆様の意見、お待ちしております。

メルマガへのご意見ご感想、また配信の停止をご希望の方は jicajv-japanese@jica.go.jp までご連絡ください。